

特集 1

デジタル一眼レフカメラ

Special Focus No. 1

A Digital SLR Camera

α-7 DIGITALの新しい価値

コニカミノルタフォトイメージング株式会社

カメラ事業部 開発部 泉 達郎

デジタルカメラの進歩は目覚ましい。高画質写真がデジタルデータ化することで、「撮る」、「見る」、「楽しむ」という写真の行為が、コスト、時間、空間の壁を一気に突破して広がって来た感がある。

その中で「一段と美しく撮れるカメラ」の代表であるレンズ交換式デジタル一眼レフカメラ市場の拡大も急速である。2003年秋のキャノンEOS Kiss Digitalは国内では12万円、次いで同価格のニコンD70が登場、フィルム一眼レフカメラに匹敵する画質と低価格化が一気に加速され、デジタル一眼レフカメラへの注目度が急速に高まって来た。

本年のフォトキナでは当社を含めた旧大手一眼レフカメラメーカー全社が、新機種を発表した。本年のデジタル一眼レフカメラの出荷台数は200万台以上、さらに低価格化が進む2～3年後にはフィルム一眼レフカメラ全盛時代の500万台に達する勢いが予想され、1985年旧ミノルタの本格的AF一眼レフカメラα-7000登場以来の一眼レフカメラ市場の活性化があるものと考えている。

一眼レフカメラという商品の重要な点は、交換レンズを含めたシステム互換性の継承である。ユーザーにとって交換レンズは資産である。このため、ボディが新しくなっても違和感無く使用でき、将来もシステムが保証されることが重要である。旧ミノルタは長年にわたってこの互換性を確保し、αシステムの信頼感を培って来た。全世界で約1600万本のαレンズがユーザーの手に渡っていることがそれを表していると思う。

しかし我々はデジタル一眼レフカメラ市場への参入が遅れた。

2003年秋に市場参入を決断したが、参入するからには、待っていただいているユーザーのレンズ資産を最大に生かし、デジタルならではの新しい価値を生み出したいとの思いがあった。

本機の特長の一つであるボディ内蔵手ぶれ補正技術「Anti-Shake (AS)」は、まずレンズ一体型デジタルカメラDiMAGE A1に搭載されたが、デジタル一眼レフカメラにも搭載する前提で開発を進めて来ていた。現行αレンズだけでなく、α-7000発売時から愛用され、既に生産を中止しているものも含めた全てのレンズで十分にその機能を発揮させたかった。

暗い場所での撮影や、望遠レンズを使用する場合でも、

三脚を持ち歩かないで気軽に撮影し、ボケ味など個々のレンズの個性を生かした高画質画像が得られる。このようなベネフィットをすべての交換レンズで達成することは、ボディ内蔵型の手ぶれ補正技術によって初めて可能になる。我々は全レンズで手ぶれを良好に補正するという一眼レフカメラユーザーにとってまさに「夢」の実現にこだわった。

本年4月、事業再編により、コニカミノルタフォトイメージング株式会社が発足した。フォト入出力技術の統合によるシナジーを発揮すべく、我々はコニカミノルタ独自の、そして一段とレベルの高い絵づくりにスポットを当てた。フィルムや出力メディアへの画像再現技術、また写真館でも使えるノウハウもカメラに組み込んだ。AF (オートフォーカス)・AE (自動露出)と新たに加わったAS (Anti-Shake)との融合によりフィルムを思わせる階調や色ののりを実現し、「独自の画質」を生んだと自負している。

「写真を見る目と写真を作る力」が強化されデジタル画像処理技術にコニカミノルタの新たな伝統ができてつある。

デジタル時代においても、一眼レフカメラである限り、撮影の道具として外してはならない機能と性能がある。緻密なファインダー、分かりやすい表示、操作部材の使い易さや感触、といったユーザーインターフェースである。フィルム一眼レフカメラα-7、α-9で定評のある技術を惜しみなく、そしてデジタル一眼レフカメラとしての価値を高めるべく、これらを発展させて搭載した。

本機はこれら様々な技術を高い次元でバランスさせ、「アナログからデジタルへのなめらかな移行」を達成した自信作である。

これを機に、お客様にとってEssentialな、そしてコニカミノルらしいデジタル一眼レフカメラシステムの新しい価値を創っていきたい。

この特集では、光学ファインダーをはじめとする「α-7 DIGITALを支える技術」、「手ぶれ補正技術」、「大型液晶に展開する情報表示GUIの開発」、「高画質を追求した独自の絵作り」について紹介する。